〝裏切りの刑〟迫る恐怖、その黒い影。

『ミラーズ・クロッシング』（アメリカ・一九九一）

またしてもアメリカに新人が出た。新人と言ってもすでに「ブラッド・シンプル」「赤ちゃん泥棒」を出している兄弟。兄がジョエル、弟がイーサン。ジョエルが三十五歳でイーサンは三十三歳。

ことし五月のカンヌ映画祭でこの二人。兄が監督、弟が製作、脚本は二人協力。この二人の新作「バートン・フィンク」が、見事グランプリを取った。

× ×

映画のストーリーは、一九二九年アメリカ東部。アイルランド系のギャングのボスのレオ（アルバート・フィニー）とイタリア系のボスのキャスパー（ジョン・ポリト）は、勢力をきそっていた。レオにはヴァーナ（マーシャ・ゲイ・ハーデン）という情婦がいた。この女が、実はレオの右腕の子分のトム（ガブリエル・バーン）とただならぬ仲に落ちていた。

映画のファースト・シーンは、男の黒い帽子が森の奥のうすぐらい細い一本の道をヒューッと風に吹きとばされてゆくその瞬間にハッと目をさました、これがトムの夢だったところから始まってゆく。この森の奥の細い一本道を、彼らは『ミラーズ・クロッシング』と恐怖をこめて呼んでいた。ミラーズとはアイリッシュのことも指すが、ミラーズ・クロッシングの語音にはダブル・クロッシングのニュアンスをも嗅ぐわけで、すなわち〝うらぎり〟だ。彼らギャング仲間のその最高の罪業こそは〝うらぎり〟だ。それで、裏切ればこの一本道で顔の真正面に拳銃をぶっ放して殺されるのだ。親分レオは、情婦の弟バーニー（ジョン・ターツロー）がレオを裏切りイタリア側に通じたので、トムに消せと命令した。バーニーは恐怖の森でトムに両手をついて哀願した。バーニーは、這いまわり泣きわめきトムに助けてくれと両手を合わすのだった。しかしトムの銃声が森にこだました。トムは、泣き伏すバーニーのからだから銃口を外して射ったのだ。バーニーの一命を、ひそかにトムは助けてやったのだ。

ところがやがてこのバーニーがイタリア系の仲間にもぐりこみ、そのボスから逆にトムを消せと命令を受ける。

全篇にこのギャング映画はアイリッシュ・メロディ流れ、射殺の鮮血、火災、それらのシーンに〝ダニー・ボーイ〟のアイリッシュ・フォークソングが流れてくるあたり、今までのイタリアン・ギャングの肌とちがって、

ボスの情婦とトムは、ただならぬ仲に

トムは、ボスから情婦の弟を消せと……

裏切りは許さない。「死刑の森」に銃声が響き渡る。6月29日から梅田コマゴールド、南街文化にて上映中。

タリアのねばっこく、はげしく、その多血振りが目を見はる巧みを感じさせた。五十か六十男の頭丸坊主のボスにはマーロン・ブラントを思わせる熱演振りを見せ、しかもこの六十近いボスを演じたポリトが実はまだ三十八歳ということでびっくりする。ブロードウェイの舞台あがりで、ブロードウェイではロバート・デュバルと「アメリカン・バッファロー」に共演していた。そのときはまだ二十六歳。このジョン・ポリト、いまに映画でも注目の筋金入りの俳優となるにちがいない。

× ×

これまでのギャング映画がスピーク・イージー（もぐり酒場）と拳銃とシカゴというようなスタイルであったものを、これはアメリカの東部、そこでのアイリッシュ系ギャングという脚本の新しい狙いが効果を出してアイリッシュメロディが、殺しのギャングの血しぶきを一層不気味にしかも悲しく見せるのだ。

この映画の主役のトムを演じたガブリエル・バーンはダブリン生まれ。まさにアイリッシュ。学校の教授であったところ、演劇クラブの生徒のひとりの父がシェークスピア劇団の一員で、この教師を見るなり演劇入りをすすめ、二年間舞台に加った。そして映画はジョン・ブアマン監督の「エクスカリバー」（一九八〇）に初出演したあと、ケン・ラッセル監督の「ゴシック」（一九八五）で本格的スタートをした。

さらに注目はアイリッシュのボスの情婦の弟に扮したジョン・ターツローは「ドウ・ザ・ライト・シング」「シシリアン」とすでに名をなしているが、次回のこのコーエン兄弟の「バートン・フィンク」にも出演している。

見るからに歯切れのいいギャング映画、しかも裏切りの暗い影を染めたアイリッシュ・メロディ。このように鮮やかな新人を見ることの嬉しさよ！

不気味でしかも哀感がこもるのだ。

× ×

レオの情婦の弟が巧い。卑怯で、それにホモで、姉にかばってもらって、ギャングの仲間に加わっている男。これが命を助けられたトムを、立場が変って敵がわについてからトムをゆするところが凄い。総じて俳優の使いかたが抜群だ。「アニー」や「ドレッサー」の名優アルバート・フィニーの名演振りは当然だが、その敵のイタリア系のボスのキャスバーを演じたジョン・ポリト。イ

びっと・いん

★モーツァルトに会える店 アマデウス

元町通5丁目に、モーツァルトを楽しめる喫茶店がある。その名は**アマデウス**で、文字通りモーツァルトの名前をもらっている。

店内には洋譜が約200冊所蔵しており、又グランドピアノが店内の中央を占めている。モーツァルト好きの店長曽根保彦氏の意気込みがうかがわれるところだ。

二カ月に一度サロンコンサートを行う他、毎週土曜の午後には店内でオペラのビデオ放映を行う。お客さんの層はモーツァルトを中心に古典音楽のファンが多い。

一見したところ、地下一階なのでわかり難いが、5丁目と6丁目の角を目指して行けば見つかり易い。

クラシックファンの方々にはお勧めの店。きっととりこになるはずだ。ブレンド珈琲（四百円）、グレープジュース（五五〇円）他

音楽あるアマデウス

■神戸市中央区元町通5丁目
AM11～PM7半
☎371－0605　無休

★元町の喫茶スポット チーズケーキの観音屋

一九七五年にオープンしたこの店観音屋は、元町3番街の一つのスポットである。この店の自慢は、なんと言ってもチーズケーキ。薄いスポンジ台の上に焼きたてでトロトロの生チーズを重ねたもの。それを食べ易い大きさにアレンジした香りも味も充分に楽しめるメニューである。

開店以来大人気のベストセラーメニューがこのチーズケーキで、チーズ商でもあるオーナーが、北欧旅行をした時に見たチーズを温めて食べるスタイルをうまく神戸流にアレンジした。（350円・セット650円）（チーズフォンデュ千五百円）。

又、オーナーが信仰する観音像を店内に祀っており北欧スタイルのチーズケーキと、観音様という粋なコンビネーションがまた人気の秘密でもある。

■神戸市中央区元町通3丁目9－8
AM10～PM9
☎391－4125　無休

チーズケーキの観音屋

★阪急六甲駅前の居酒屋 しゃぶしゃぶ甲（かぶと）

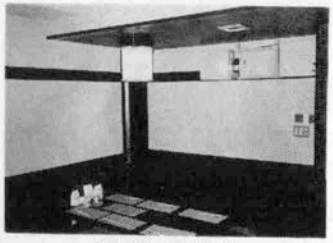
昭和61年7月7日に居酒屋としてオープンしたKABUTO。当初は神戸大学や松陰女子大学が立地する六甲という土地柄から、学生層に人気があった。しかし、六甲は閑静な住宅街という一面もあるので、この地の住人を放っておく手はないと考えたのがオーナーの横山さん。

平成3年4月30日から、ランチタイムメニューを発案しシャブシャブKABUTOとして再デビュー。ターゲットを御婦人にもあてることとなる。

例えば「井戸端会議コース」はAM11時からPM3時まで。ファミリーの団らん風に楽しんでいただけるコースである。ただし予約が要る。そしておすすめは「カブトコース」（二千八百五十円）。その他に「食べ放題コース」（二千五百円・ただし二時間以内）もある。使う肉はもちろんすべて神戸牛で、値段はお得。

将来が楽しみな店だ。

■神戸市灘区山田町3丁目2－6
AM11～PM2、PM5～11
☎822－0222



しゃぶしゃぶかぶと

★御影の地にカリー専門店
カリー元年オープン

阪急御影を降りて北へ歩いたところに御影ガーデンシティがある。その一階にカリー専門店カリー元年がオープンした。

この店は、カリーのテイクアウトが中心で、日本では初めての御持ち帰りカリーのパイロットショップである。〃EAT・IN〃のコーナーではコウベウォーターとコシヒカリ米を使ったカリーライスを試食して頂く。特殊なレトルトパッケージに入ったカリーは、電子レンジでいつでも食べられるが特長。つまりカリーの新しい食べ方の提案をする訳だ。その意味でカリーの〃元年〃となる。又神戸居留地発カリーの〃元年〃の意味も込められる。

カリー元年オープン

カリーをおいしく食べて頂く為の新提案カリー元年は、御影の地で話題を呼びそうだ。

■神戸市東灘区御影山手1―2―10 御影ガーデンシティ1F、TAKE OUT11～19半 レストラン11～19 ☎078―841―5529

★店長のはにかんだ笑顔が魅力の〃ミルクホール〃

生田新道と鯉川筋の交差点から東に三十メートル、アーバンライフビル2Fにある〃ミルクホール〃は、神戸の数多い喫茶店の中でも一味違ったおもむきを見せている。

カフェオール（600円）を注文すると、いれたてのコーヒーとミルクが別々に、ワゴンで運ばれてくる。目の前のカップに、コーヒーとミルクが、そしてやすらぎが混じり合う。店長の細やかな気くばりが、飲む側に伝わって、不思議に落ち付くのだ。

モガの時代の喫茶店、〃ミルクホール〃。茶系にまとめたシックな店内はどこかしら、なつかしい。

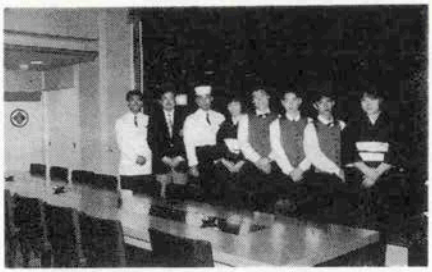
夕方四時からは、お酒も楽しめる。カクテルは700円より。珍しいドイツの〃小石のキャンディ〃（200）は女性に人気。テイクアウトもできる。

せわしない世の中を窓からボンヤリ眺めるのもいい。

■神戸市中央区下山手通3―8―14 元町アーバンライフ2F AM10～PM10 ☎331―5991 水曜休

ミルクホール

☆KOBE デビュースポット
鍋懐石「西村屋」熊内茶寮


熊内茶宝をスタッフとともに

「ちょっと立ち寄って食べる。」というのとは違い「ここで食べる為に来る。」という形の懐石料理の店、西村屋熊内茶寮が新神戸駅近くにオープンした。

今まで懐石料理というと女性指向だったが働き盛りの男性をもターゲットに含め、男性指向の料理をもてなすのがここの方針。「野趣」と言うが、当店ではその〃ダイナミックな野性の趣き〃を追求する事となる。その中心は鍋懐石である。これからは器も男性ぽく力強い趣きを持たせると共に、繊細さも同時に持たせて行きたい。

そもそも西村屋は城崎が発祥の地で百四十年の伝統を持つ。その流れをくみここ熊内茶寮も、落ちついて、かつゆったりした料理をサービスの柱とする。

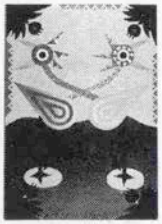
接待に使える懐石料理店なので、大切な御客様のもてなしには、熊内茶寮と指名して欲しい。

神戸市中央区熊内町1―8―23 11半～14、17～21、無休 ☎078―231―6767 駐車場

ポケット ジャーナル

新開地アートビレッジ夏三昧'91

平成3年7月27日(土)〜28日(日)、「新開地アートビレッジ夏三昧'91」(主催 新開地アートビレッジ夏三昧実行委員会・実行委員長鷲田信郎)が開催される。



PRポスター

これは、新開地の街づくりを通して、神戸文化の発展の一助となるよう、去る平成3年5月1日に発表された〝新開地アートビレッジ構想〟を受けて催されるひとつの試みである。

内容は、イベント・音楽市場、7／27(土)・15時〜18時、出演・春待ちファミリーバンド(ジャグ)・ネーネーズ(沖縄民謡)・ロス・ルンベロス(サルサ)、7／28(日)・15時〜18時、出演・光玄(ブルース)・ホン・ヨンウン(ロック)・憂歌団(ブルース)。会場は、いずれも湊川公園(雨天の場合、兵庫区公会堂)イベント・帰ってきた寄席ばやし、7／28(日)・19時〜21時、会場・新開地劇場、入場料・前売り1000円、当日1200円、出演・露乃五郎(落語)・トミーズ(漫才)他。また両日とも湊川公園に民族料理等の屋台を出店(12時〜18時)フリーマーケット(10時〜18時)もある。

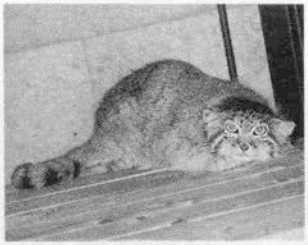
憂歌団

なお、当日は付近の駐車場の満員状態が予想されます。来場の際には、電車またはバスの利用をお願いします。

▼珍獣マヌルネコ王子動物園に

中国の天津市天津動物園から、市立王子動物園にマヌルネコが贈られ、6月4日より、一般公開されている。

マヌルネコはシベリア南部、中国四川省、チベット高原に生息する珍獣で、絶滅に瀕しており、ワシントン条約で商取引が禁止されている貴重な動物。



珍獣マヌルネコ

贈られたのは、昨年6月に続いて、2頭目のメス。体長約60センチ、体重1.4キロ、グレーの毛なみに、大きな目をして可愛らしい。

東京上野動物園にもオスが一頭いるが、複数飼育は今回が全国初。

★誕生日ありがとう運動

第十九回市民の福祉講座

当本部が運動を推進する手段には六種類あります。献金、古切手の収集、啓発紙、啓発図書、啓発映画とビデオそしてパネル・啓発のつどい「市民の福祉講座」であります。このうち市民の福祉講座は回を重ねて今年で十九回になりますが、次の要領により開催することに決定しました。

- テーマ　福祉の新しい風ノーマリゼーションとは
- 日　時　八月四日午前十時より
- 日　程
- 基調講演　ノーマリゼーションとわが国の福祉
  日本女子大学教授　一番ヶ瀬康子先生
- ちえ遅れの用語キャンペーンの説明
- パネルディスカッション
  すべての人が共に生きる豊かな社会を
  パネラー
  統合保育―松村寛(風の子保育園園長)交流学習―梅谷千鶴栄(元青陽東養護学校教諭)障害者問題―金附洋一郎(神戸聖生園園長)老人問題―中辻直行(永栄園園長)コーディネーター　野上文夫(川崎医療福祉大学助教授)

暑い季節ではありますが、ご来聴を歓迎します。

誕生日ありがとう運動本部
651 神戸市中央区御幸通八―一―六
神戸国際会館一階・郵便局の隣
☎〇七八―二三一―二一一四

▼45年ぶり大阪・京都中等野球OB戦

太平洋戦争敗戦に打ちひしがれた全国中等学校優勝野球大会は、昭和21年夏、西宮球場によみがえった。優勝戦は浪華商業vs京都二中で行なわれ、2対0で浪商に凱歌があがった。

その頃の球児達も今や還暦。予選参加の他校選手も交え約150人が懐しの西宮球場で、再会する。「戦後復活全国大会決勝記念大阪・京都OB戦」と銘打つこの球宴は、7月11日午後1時、牧野直隆氏（日本高野連会長）の始球でプレーボールする。元球児の対決や如何に。写真は谷川照夫氏（市岡商OB）の提供による。同日、先発予定の両エースのサインボール。

好敵手、再び

▼〝ほのぼのレイク〟創作童話募集中

〝ほのぼのレイク〟でおなじみの㈱レイクは『ほのぼの童話館』と題して、創作童話を募集している。あなたも素敵な創作童話にチャレンジしてみては。

●テーマ・自由（日本語で未発表の創作童話）
●原稿規定・400字詰原稿用紙5枚（黒鉛筆かインク。ワープロ原稿可）
●応募資格・国内在住の方（「一般の部」＝高校生以上、「児童の部」＝中学生以下）
●応募方法・表紙をつけて、タイトルと「一般の部」及び「児童の部」と、郵便番号、住所、氏名、年令、性別、電話番号、職業（学校名）を明記。
●応募先〒541大阪市中央区淡路町2－3－9㈱レイク広報室「ほのぼの童話館」一般の部または児童の部係。
●締め切り・平成3年8月20日（当日消印有効）
●問いわせ先・㈱レイク広報室渡辺好造☎06－226－0909

ときめきを童話に

▼神戸大学留学生懇親会、開かれる。

日本婦人の政治に対する関心を促そうと結成された神戸婦人有権者連盟は、6月15日神戸大学・ランスボックスで、各国留学生約25名を集めて「留学生有志との懇親会」を催した。

伊庭文子会長の挨拶で始まり、それぞれ留学生活についての感想や意見を交換し合った。

「日本人はストレートに話をしないので、なかなか気持ちが通じない」「日本には留学生をアフターケアーする機関がないので、帰国後、日本で生まれた交流が途絶えてしまう」など素直な意見が出された。

伊藤文子会長

料理はすべて手作り。童謡「赤とんぼ」などをみんなで歌って、懇親会は和やかに閉会した。

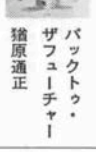
▼外国人対象、「心の相談室」

足元からの国際交流を目指して今年3月に発足したボランティア神戸は、在日外国人の悩み事や相談にのる「心の相談室」を6月10日に開設した。

相談には、家庭裁判所の調停員ら3人が、日本語と英語で応じる。世話人の井上香子さんは「気軽に国際交流の窓口として利用してもらいたい」と話す。

相談日は毎月第2、第4

図書ガイド



バックトゥ・ザフューチャー
猪原通正

「日本で一年間に使われ捨てられる紙パックは全部で三二億本。これは、高さ八メートルで太さ一六センチの木に換算すると、一七一五〇〇〇本になる」それは勿体ない、ということでできたのがこの本。牛乳パックで作られる様々なものを紹介している。楽しく地球を考える本。もちろん再生紙を使用しています。（京都書院刊　九八〇円）

ナマステ ネパール
伊丹三樹彦

俳句とネパールのフォトグラフの写俳集。一見、不釣合なこのふたつが調和している。その数少ない文字の中に、鮮やかな光と影にネパールに恋をした作者の熱い想いが伝わってくる。ネパールと作者が織りなすドラマ。感性はいずれ理屈では語れない。この本はそのことを教えてくれる。（㈱ビジネスプレス刊四〇〇〇円）

おさらい
松原千智

ささいなことが、気掛りになってどうしようもないことがある。気に留めだすと、とどまらない。どんどんと深みにはまって、ただ疲れてしまう。この詩集は、そんなたわいのない出来事をビデオのコマ送りのように描写している。「気になるから詩にしてみよ」という素直で飾り気のない作者の人柄がうかがえて、おもしろい。（編集工房ノア刊　一六〇〇円）

月曜日の午後2時から4時まで。希望者は予約を。問い合せ先は神戸市中央区江戸町、国際コミュニケーションセンター☎078―322―0303

▼第3回谷上夏まつり

神戸電鉄主催の夏まつりが谷上SHビルで8月1日～8月4日まで開かれる。

主な催しは次のとおり。

●子供英会話教室／7・22・23・25／13：00～15：00／千円要●ビッグチャンス衣料品バザール／7・26～28／10：00～17：00●圭・修がやって来る／チャレンジ・ザ・クイズ大会／7・28／13：30～15：30／無料●夏の大鉄道展'91IN谷上／8・1～8・4／10：00～18：00／無料

他にも盛りだくさんの内容。中でも大鉄道はこのまつりの目玉。本物そっくりの模型列車を走らせる。

大鉄道展

問い合わせ先は、神戸電鉄企画課事業係☎078―575―3171

▼兵庫県立近代美術館公募要領決まる

様々な美術の創作活動に励む県民の方々の日頃の成果を発表する場、新人美術家の登竜門として、今回で21回目を数える兵庫県立近代美術館公募'91県展が開催される。公募の要領は次のとおり。

●公募部門・洋画、日本画、彫塑、工芸、書、写真、デザイン。●応募資格・兵庫県に在住、在勤、在学する16歳以上の方（国籍は問いません）●作品受付・搬入日時、7月13日（土）及び7月14日（日）、10時～16時。搬入場所、兵庫県立近代美術館講義室（美術館南・駐車場前）●出品規程・「出品規程（申込書を含む）」は、兵庫県立近代美術館、各県民局、県立文化会館などに配布。詳しくは、左記の兵庫県立近代美術館普及課県展係まで。●問合せ先・兵庫県近代美術館普及課県展係☎078―801―1591

花時計

神戸まちづくり「フェア」

神戸で「アーバン・リゾートフェア・コウベ・'93」が平成5年、開催される。この開催について笹山神戸市長は「神戸市民一人ひとりが『やさしさ』と『ぬくもり』を実感できる魅力ある街を市民とともに作り上げたい。

人びとが住み続けたいまた訪れてみたくなるような都市―アーバンリゾート都市を創っていきたい。このまちづくりは、市民・企業・市が一体となって快適な都市環境、豊かな都市文化を創造していくものです。平成5年には、六甲アイランドの完成、ハーバーランドの街びらきなど、アーバンリゾート都市神戸実現への序章を飾る年にあたり、これを記念して神戸のまち全体をステージとした『アーバンリゾートフェア'93』を開催します」と挨拶をされている。

誠に素晴らしい発想で流石、神戸だと膝をたたく思いだった。また一方では従来のフェアのあり方を払拭して、パビリオンなどはつくらないと斬新な発想、そのテーマは「古き良き街の魅力の創造と、新しい街の息吹の出会い。」だ、何んとしてもこのフェアを成功させなければならない。

＜Y＞

●KOBE POST

★音楽家のジャン・メルオー神父が宝塚カトリック教会へ転任されました。〒665宝塚市南口1丁目7番7号☎0797（72）4628（教会）直通0797（77）3151FAX0797（72）6785又は英知大学〒662尼崎市若王子2の18の1☎06（491）5000

★詩人の**藤本義一**さんの新しい仕事場のお知らせ。〒151東京都渋谷区代々木2丁目37ノ15東秀和レジデンス110☎03（3378）2200★株式会社モードリンダ（**三浦幸衛**代表取締役）の西神本社が、7月17日にオープン。〒654神戸市須磨区弥栄台3丁目11ノ3☎078（795）5000

★ニュージランドの国立マッセイ大学のNZ日本学センター初代主任研究官として3年半の任期を終え、4月1日から園田学園女子短期大学の助教授として**田辺真人**氏が、新しい仕事につかれました。大学／尼崎市南塚口7丁目29ノ1☎06（429）1201自宅〒654神戸市須磨区菅の台7丁目25ノ6☎078（792）4662

★兵庫県洋菓子協会の新会長に、5月17日の総会において**浜田正二**氏が就任され、前会長の**増田實**氏は名誉会長・理事に就かれました。

★神戸服装専門学校の**米谷玲子**校長が一身上の都合により円満辞任され、後任に副校長の**横田初江**さんが校長に就任されました。

★7月20日午後6時より〝**バッキー白片**とアロハハワイアンズ〟と共に〝**すみもとかみ**〟（唄）**丹野最世子**（フラダンス）で、ライブハウス「ケントス」で。☎（392）2181、申込み☎（302）8785、5、000円。

★Kobecco club　会員情報

愛読者のためのコミュニケーションサロン

神戸っ子倶楽部新会員
継続会員ご案内

■神戸っ子倶楽部では、ただ今会員を募集しています。会員の方には「月刊神戸っ子」を1年分お届けします。また、神戸っ子倶楽部の会報として、「月刊神戸っ子」の誌面上に、「神戸っ子倶楽部ニュース」を毎月掲載、会員の動きなど様々な情報を提供します。さらに年2回、文化性の高いイベント（コンサート、美術展、演劇など）に特別割引または無料でご招待いたします。年会費（入会金を含む）は1万円です。

神戸を愛する人たちのカルチャークラブ「神戸っ子倶楽部」。あなたもご入会になって豊かな神戸っ子ライフをお楽しみになりませんか。

会員の方は有効期限をお確めのうえ、継続会員として年会費をお納めください。

□入会申込・お問合せは——

〒650 神戸市中央区東町113—1大神ビル9F
TEL・078—331—2246
FAX. 078—331—2795

第14回　花かがみ公演

松竹大歌舞伎

一、京人形　銘作左小刀　常磐津連中　長唄囃子連中
二、三代目中村鴈治郎襲名披露口上一幕　近松門左衛門作　宇野信夫脚色・演出
三、曽根崎心中一幕三場

●特等4120円、一等3090円、二等2060円、あじさいシート1030円を10%OFFでご優待

8月31日(土)昼の部1時開演
夜の部6時開演
9月1日(日)昼の部11時開演

神戸文化ホール大ホール

「神戸ゆかりの洋画家たち」の展覧会を会員の皆様に無料でご招待します。
於　ホワイトハウス

ポートウォッチングマップができました。

栄町通から旧居地界隈に建ち並ぶ、近代洋風建築の数々。ミナト神戸を愛する人々が作ったポートウォッチングマップ（300円）を20名様にプレゼント。

■上記チケットを御希望の方は、ハガキに住所・氏名・会員No.・電話番号・希望枚数を明記の上、〒650 中央区東町113—1大神ビル9F月刊神戸っ子・神戸っ子倶楽部まで

北野国際まつり

KITANO INTERNATIONAL FESTIVAL '91

文・有井　基
<フリーライター>
カメラ・池田　年夫

今年のキャッチフレーズは「フレンドシップ&ファン・イン'91」だそうな。つまり、ふれ合いと素敵な出会いの場、ということになろうか。

神戸の新しいシンボルとなった『北野国際まつり』も、すでに十一回目。七月二十七日（午前十時〜午後八時三十分）、二十八日（午前十時〜午後七時）の両日、北野天満神社で開かれる。

北野は、古代から宇治野、平野、夢野と共に神戸七野と呼ばれた一つ。小野の北に位置するところから「北野」の地名がついたらしい。神社の云い伝えによれば、治承四年（一一八〇）、平清盛が福原遷都の際、京都の北野神社から分霊して祀ったというが、確かな資料はない。ただ、拝殿を修理中、寛保二年（一七四二）七月、と建立年月を墨書した棟札がみつかっている。二百五十年前からの足取りは、これでつかめたといえるだろう。

とはいえ、昭和五十二年（一九七七）のNHKドラマ「風見鶏」ブームで、年間五十四万人の観光客が訪れるようになってからも、北野神社に心ひかれる人が何人あったろうか。風見鶏の館（旧トーマス邸・重文）と隣り合わせた形で、鳥居と石段があるというのに。

「きつい云い方をしたら、ペンペン草が生えていた」北野神社が、北野界わいのシンボル的な存在として脚光を浴びるようになったのは『北野国際まつり』あってのことだ（同実行委員会メンバーの話）という。

昭和五十五年（一九八〇）は、北野神社の〝遷座八百年祭〟に当たった。どんな祭りにするか。佐藤直邦宮司の思い出にある祭りは、外国人の子どもといっしょにミコシをかついだこと。ハッシやビニーたち仲良しの友や悪ガキのギタトリンの無邪気な笑顔など、忘れられない光景だった。

それもそうだろう。「異人館」と呼ばれる洋風近代建築が建ち並ぶ北野町界わいには、約六十カ国、二千人に近い外国人が住んでいる。北野神社の氏子も二七%が在日外国人だ。昭和十九年生まれの佐藤宮司にとって、欧米人であろうが東洋人であろうが、わけへだてをすることすら考えにくかったに違いない。

祭りの輪に外国人を入れよう、という発想とは逆に、日本人と外国人で一つの輪をつくろう、と佐藤宮司は考えた。共鳴する人びとが集まってきた。日本の祭りに参加したいと願ってきた外国人、理屈抜きに人類愛を大事にしたいと望み続けた日本人が、手弁当で寄ってきた。実行委員会は、佐藤宮司を委員長とするほかは、毎年、委員を選び「一人のボスは存在しない。全員が無名で下積みのボランティアに心の底から甘んじている」と、私の友人O君は、クギを刺す。誰かが何かを得るためではないことを強調するために。

今年のスタッフ・ミーティングも大詰め。十九の委員会のメンバーはざっと七十人。そのうち三十人が社務所に詰めかけた。日本人、外国人、老若男女のバランスもいい。会費五百円。いつも個々に実費を持ち寄り、カレーを作ったりハンバーグなどを買いに走って、勤め帰りの空腹を満たす。

佐藤宮司の条件はただ一つ。「草の根レベルの世界平和祈願の場とすること」だ。神道の場にヒンズー教、シーク教（ヒンズー教の一派）、拝火教、パーシー教（拝火教の一派）、ババイ教（回教の一派）、ギリシャ正教、キリスト教のカトリック、新教、仏教、修験道などがつどい、それぞれの儀式に即して平和祈願を行う。太鼓やタンバリンを打ち鳴らすヒンズー教徒や、ラビの祈りを奉げるユダヤ教徒…。

そこに〝融合〟はない。それぞれが独自の宗教的伝統

日本人、外国人、と区別するのではなく、みんなで一つの輪をつくろう、と佐藤宮司。

を誇示するように、さりげなく〝共存〟している。

「人それぞれの神は、自分自身の心にある、ということから出発しています。祈りの場所として、たとえ神社であろうと、平和を希求する気持は共通ですから、拝む作法がどうであれ、全く問題はありません」

第一回から十一年間、事務局を預ってきたYさんの、誠実な受け答えには、脱帽あるのみだ。

実際、か弱い人間が祈る心は一つである。祈る作法や手順など、気にならない。ごく初めのころ、ユダヤ教会による祈祷が始まり、祈る人たちは、まず本殿に会釈したあと左90度へクルリと向きを変えた。エルサレムへの礼拝を奉げる自然な習慣だから。それに対して佐藤宮司も巫子も、ごく当たり前のようにしたがったという。

こんな話を聞いていると、文句なしに、いいなあ、と思う。国籍、人種、宗教、世代、思想信条を超えて一つになれる人間に、私もなりたいし、友人・知人にも誘いかけたい。少なくとも「国際都市・神戸」などといったスローガンが見失わせている本モノの人間理解を、取り戻せる最高の舞台である。

上／今年のスタッフ・ミーティングの様子。
下／建設中の北野プラム・テラス。北野町の文化ゾーンの核になる。

サンバ、モダンダンス、韓国と沖縄の民族舞踊、中国の獅子舞や手品など「国際ステージ」は、観客に見せるためのパフォーマンスだけでなく、神への供え物だ。本場のインドカレー、ホームメードのケーキなど世界の料理やアンティック、民芸などのグッズを売る境内のブースは、各国の人びとが言葉や習慣の違いを超えて心を通わす〝縁日の市〟といえるだろう。

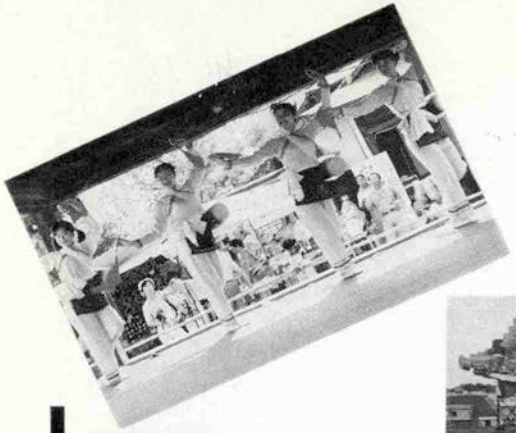
事務局のYさんから、参考までに、といただいたコピーの中に、シェパード外語学院院長クレイグ・スミスさんの「育ってほしい草の根のインターナショナリズム」という一文に惹かれた。

＜北野国際まつりは、神戸市が表面だけでなく、本質的に国際都市になろうとしている一つの現われだと思います。昔なつかしい良き田舎のお祭りを思い出させます。人びとが糸であるなら、国際まつりは、はた織り機です。誰もが参加でき、それぞれの努力で、才能、文化、職業、人種で織りなしていく、つづれ織りです。どんなに高価な織物にもまさる愛のつづれ織りです＞

祭りの基本テーマは「愛」。無名性を誇りとするスタッフの、誇りの支えはチャリティーだ。チャリティー・ブースやオークションの収益は、たとえ僅かでも国内の施設や東南アジア・インドなど諸外国に、一銭の狂いもなく送られている。今年は、新たに「献血キャンペーン」が加わった。ピエロ軍団、トランボビスク、似顔絵などステージの参加者が献血を呼びかけ、採血も行う。

「十年も続けると一つの歴史的伝統が、草の根に浸み込んだ気がする」と、O君がいう。その伝統とは、国際性などという抽象的な言葉と無関係に、一人ひとりが祭りの主人公を体験することによって、人間愛を確かめ合うことだ。そこには、政治家の打算的な介入や、企業の宣伝の利用を許さない〝草の根〟の誇りがある。

市民の一人として、骨太い発展をねがうと同時に、あと何日か、の「北野国際まつり」に熱い期待を寄せるばかりだ。いや、正味、待ち遠しい。



KITANO INTERNATIONAL FESTIVAL'91

7／27 (SAT) ・28 (SUN)

KITANO TENMAN SHRINE

今年もまた、国際色豊かなまつりがくりひろげられる。（写真は昨年のまつり風景）

Friendsip

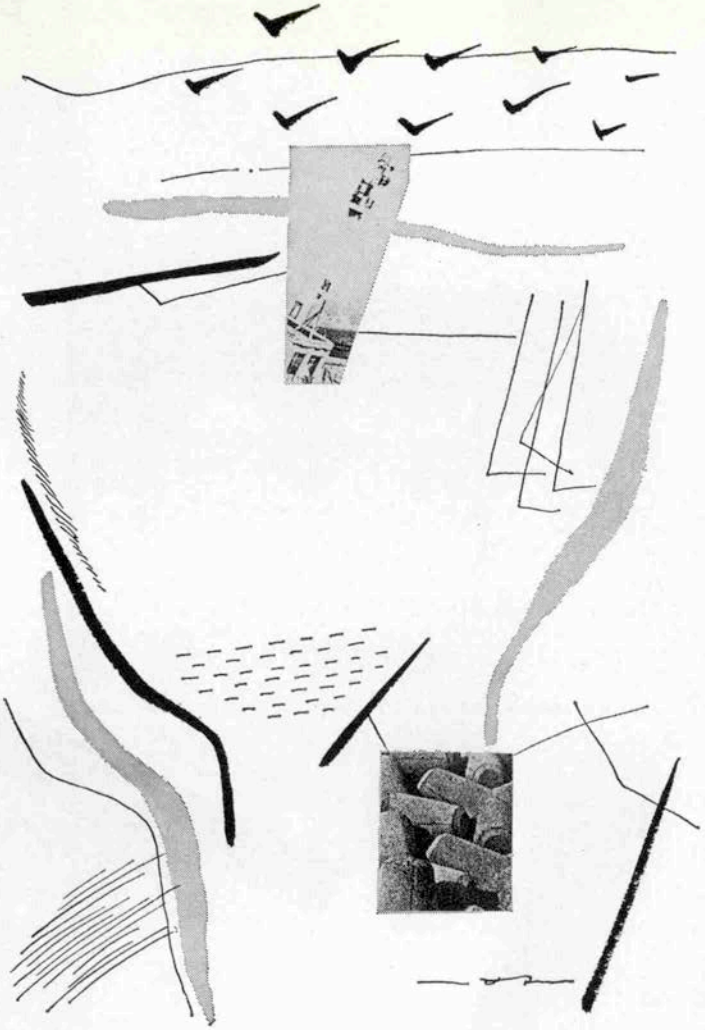
&

Fun

連載小説〈第4回〉

星の光 月の位置

大迫 智志郎



カット／田中一好

結局、勉強らしいことは数少ない授業以外ほとんどやらなかったのに、ぼくは一つだけ受験した普通高校に合格した。自分では、まだ変化を望む気持ちが心のどこかにあったのかと不思議だったが、とにかく周囲は妙に喜んだ。親はすかさず中学校側と交渉して卒業証書を取ろうとした。学校側も出席日数がかなり足りないはずだったが、ぼくの卒業を許可した。

あっけらかんと桜が散る中、在校生が列を作った道をぼくが混じった卒業生たちは、吐きだされるようにして義務教育課程を終えた。

高校に入っても何も変わりはしなかった。より均質化された仁丹のような「高校生らしい高校生」たちは、おもしろくもなかった。変わり身の早さ、排他性、不自然なまでの同志向はとても若い人間の集団とは思えない。実質的な利益を得られないと見ると、すかさず関係を切ろうとする冷淡さも、懐深く踏みこんでまで人間関係を作ろうとしないつきあい方も中学と同じだった。むしろ、粒が揃えられている分だけ輪をかけてひどくなっている。

高校に通いはじめてしばらくたつと、ぼくはますます学校と関わりを絶ちたくなった。ノルマに追われる教師の姿勢も、生徒の無個性ぶりも何も変わらない。そして、ぼくも変わりはしなかった。

やはり海まではそう遠くなかった。

車の通る橋をひとつと電車の通る橋をひとつくぐると、もう海だった。河口は緩やかに蛇行していて、両岸から張りだしてテトラポットの列が流れを何度も寸断している。海に向かって右の奥は常緑樹の森に囲まれたヨットハーバーになっており、セールがたたまれた幾本ものマストが中空をかきまぜるように揺れている。ぼくが歩いてきた側には小規模の漁港があって、防波堤で囲まれている中に船は見えなかった。埠頭の先に赤い灯台がひとつと、二階だての釣り具屋が一軒ある以外は深緑に覆われたコンクリートと淀んだ海水があるだけの大ざっぱな風景だった。

もしヨットハーバーに出る側の岸を歩いて海に着いていたらどんな気持ちがしただろう。こちら側は途中の道のりは華やかだったけれど、着いてみれば味気ない漁港だ。土地の人なら散歩するときはきっと向こうの道を選んだに違いない。

ぼくは漁港を横ぎり、その裏手の松林の中へ入っていった。薄暗いほど茂った松林は足を踏み入れると、一面に茶色い松葉が土を隠していて、足の裏にやさしかった。右手から潮騒と海風が届き、松の幹の間からのぞく海の気配は思いがけないほどの開放感を呼ぶ。まだ目にしていない視界にいっぱいの海の姿と、松林の中をめぐる細い小道の心地よい緊密感は、頭の中で向き合い、軽い陶酔を伴った落ち着きを与えてくれた。

夕刻にはまだ早い。ぼくは海に向かうまえに、もう少し松林を歩いてみることにした。

ふいに幾棟もの住宅が現れた。有刺鉄線の向こうに平屋ばかりの小ぎれいな住宅地がある。

有刺鉄線で囲われていたのは、松林のほうだった。どうやらぼくは一軒の家の庭に出たらしい。その家は白く塗られた木の洋館で、右側の三角屋根の部分が増築されたらしく、真新しかった。テラスの端に置かれた洗濯機の隣りで犬が吠えだす。小さな鳴き声に足下を見ると、子猫がやみくもに擦りよってきていた。思わず屈んで手に乗せる。見れば和毛に覆われた赤ん坊だ。よく踏みつけなかった。

視界の隅で動く気配がした。顔を上げると、真新しいほうの窓辺に人影が現れた。

比較的背の高いその人影はレースを開けてこちらをうかがうようすだった。子猫をつまみ、ぼくは意を決して歩きだした。

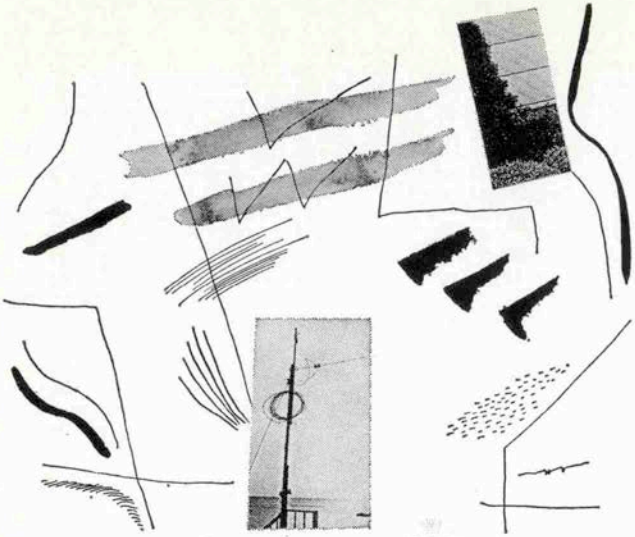
ぼくが近づくのを見た人影は窓を開けようとした。軽く頭を下げ、ぼくは子猫を持ち上げてみせた。

人影は白髪の老人であった。彼はサッシを開け、ぼくを見て、口も開けた。
「松林を歩いてたら、ここへ出てしまいまして。その、子猫が……」
老人の目から不審の色が消える。おお、と言葉にならない声で口ごもり、片手を頭のまえに上げて揺すり、何度も大きくうなずいた。
「……そうですか、そう。猫が」
言葉になまりがない。ぼくは彼がおずおずと揃えた掌の中に子猫を委ねた。老人の表情がいちどきに緩む。
「……お宅の猫ですね」
たずねると、彼はまたうなずいた。
「親からはぐれて……、朝から探しとりました」
「妙な時期に生まれましたね。母猫は白ですか？」
「母親はキジです。家の中で育ったもので、猫も自然を忘れるらしい。はて、地の方ではないですな？」
「ええ。観光というわけでもないのですが」
ぼくは軒の下に手彫りらしい木製の看板を見つけた。はる美術館、とある。
「ここは美術館なんですか？」
洗濯機の方を見ながらぼくがたずねると、老人は柔らかく笑って少し首を傾けた。
「ほっほ、美術といっても、わたしのかいたものを並べとるだけですが」
「絵をおかきになるんですか」
「はぁ、まあ少し」
老人はレンガ色のシャツの上に地味なカーディガンをはおり、黄色のアスコットタイをしている。
「ところで、あなたはどうしてここに」
「あ、すいません。松林の中を散歩しておりましたら、うっかりお宅の庭へ出てしまいまして」
「……そうでしたか。今までにも何度かそんな人がありました。男性がみえたのは初めてだ」
老人は派手な色の付着した爪を唇にもってきた。
「こちらの海はごらんになりましたか？」
「いえ、それがまだ。どうせなら夕刻までとっておこうと思いました」
彼は幾度もうなずいた。
「あの、もしよければ、絵を拝見できませんか？」
「ええ、構いませんよ。いま、友だちがおりますが、それでよければ」
「あ、いえ、それでしたら、日をあらためて」
「いや、あなたさえよければ。近しい友人ですから」
彼はこころよく招き入れてくれた。
ぼくは適度に手を入れられた美しい庭を通りぬけ、いったん玄関口へ回り、老人が手ずから揃えてくれたスリッパに足を通した。
外からは平屋に見えた三角屋根の建物は内部に入ると半地下のフロアーと二階部に分かれていた。壁は漆喰で塗りつぶしてあり、外壁にもまして真白だった。採光部の大きい室内には冬の日差しが満ち、すべての壁に大きな絵画が掛けてある。
ぼくは言葉がでなかった。絵の数は想像よりはるかに多く、そして一枚一枚が大きかった。
「……絵が、たくさんあるんですね」
思わずつぶやくと、老人は声をたてて笑った。
「はい」
小鼻にしわをよせて、彼は階段に足をかけた。
「ぜんぶわたしがかいたものです。下からゆっくり見なさるといい。わたしは上のアトリエにいます」
ぼくは頭を下げた。絵について話を聞いてみたかったが、なによりもまず集中して絵を見たかった。
老人の絵は総じて大きく、色彩は多様だった。襖ほどのキャンバスに油絵ばかりである。入口から壁二面にシリーズらしく地中海のような風景に人物が点在する大作が並び、その先にあじさい、ばら、和服の女性の座像と続く。写実的なものが多かったが、中には外見をかいているのに内部から見たような形をしたテーブルや胸像な

どの絵もある。それぞれの絵の下には白い紙きれがピンで止めてあり、そこに素っ気ないタイトルばかりが印刷されてあった。

人物の絵は美しいと思った。風景画は形のはっきりしないものが多くて分からなかった。ぼくは入口の部屋を見終わり、半地下の奥へと進んでいった。数段の階段を下りて部屋に入ると、猫が何匹もいる。ぼくを見ても驚くようすもない。絵と同じく、まるで配置が決められているかのようにその場を動かない。照明のスイッチの横の小品から眺めようとしたぼくは、ふと離れた窓のそばにある大きな絵に目がいった。

背景の明るい緑色が目立つその絵は素足で立つ少女らしき人物が描かれてある。ぼくは手近の絵にもどろうとしたが、急に、どうしてもあの少女の絵を先に眺めたくなった。



マホガニー張りのフロアーを横ぎり、ぼくは心の内でどこかもったいをつけながら絵に近づき、一瞬目を伏せてから頭を上げた。

少女は十四、五歳だろうか。どこか野性的な開襟の夏服の胸元がいくぶんふくらんでいる。背景は濃淡の差こそあれ緑一色だと思ったが、近づいてみると足下の向こうに荒涼とした海が広がっていた。ほとんど剝きだしの脚はしなやかに伸びて地をつかみ、細い肩の上に中性的な顔があった。

少女はどこかを望んでいる。浜ゆうが風に逆らう砂丘に立ち、かすかにあごを上げ眼ざしは遠方に伸びていた。凛とした脚の線、内に向かう引き締まった下腹から奔放に開いていく緩やかな上体のふくらみ、おもねるところがない若い視線。口許は意志を結び、降ろされた両手はどこへもさしだせる自在さをもっていた。

ぼくは一枚の絵に心ひかれる自分が興味深かった。少女は顔立ちからして日本人ではなさそうだったが、絵全体の雰囲気が適当に情緒的で違和感は感じない。色、構成、場面と、日ごろぼくが目にする光景とは差があったが、ぼくの感覚にすんなりとより添ってくる。

取りたててエロティックなわけでもない。むしろ少女の毅然とした潔さは俗っぽい視線を許そうとはしていない。可憐というわけでもない。少女も絵も、何かに依ることなく立っているように思える。要素として海の存在が強くもない。海は背景の一部にすぎず、主体は海でも少女でもないような気がした。画面の縦方向いっぱいにかかれた少女は、やや左よりに立っている。なぜ海側の空間を広くとったのだろう。海に向く少女の自覚のないためらいが、そこにこめられているような気がした。

二階部へ上がる。ここも真っ白だった。高い天窓から陽光が床に敷かれている。広いワンフロアーで人物画を中心に、やはり大きな絵が展示されている。気配に気づいて、ついたてのようになっている白い壁の向こうか

ら、さっきの老人が出てきてくれた。
「好きなのを一枚見つけました」
ぼくは子供のように報告した。
「ほう。気に入ってくれましたか」
「下の奥の少女の絵です」
「少女？　いくつかあったと思いますが、どれでしょう？」
聞かれて、ぼくはあの絵のタイトルを見ていないことに気がついた。
「……あの、背景が緑色で、ちゃんと服を着ていて、立ってるやつです」
老人はほほえんだ。
「あぁ、あれ」
「実はあの絵に限ってタイトルを見落としたのですが、あれは何というタイトルですか？」
「あれですか？　あれは、風です」
「……風、ですか」
「ええ、もうずいぶん前にかいたものです」
「そうですか。ぼくはあれが好きでした」
「……そう。若い人にはいいかも知れない」
壁の向こうから声が聞こえた。
「じゃあ、そろそろ」
年配の男性の声である。
「ほい、そうか」
老人は壁の向こうに首だけ回した。老人の友だちという客はあちらで帰りじたくをしているらしい。
「なんだか、申し訳ありません」
そういうと、彼は顔のまえで手を振った。
「いや、気にせんでください。他の人ならともかく、彼は幼なじみだもんだから。毎日茶飲み話ができる相手です」
「すいません」
「で、もう、ここの絵はごらんになりましたか」
「いえ、いま上がってきたところです」
「このフロアーはね、最近のものが中心なんですよ」
老人は壁のほうを撫でるみたいに腕を動かした。
「そうなんですか。では下の階ほど若いころの作品というわけですか？」
「いや、厳密にそうやってるわけではないんですが。この階でも、若い時分の絵もありますよ。そうだ、どれが若いころのものか分かりますか？」
彼は目を輝かせてたずねた。
「さあ、ぼくは詳しくないので。勘で当ててみることにします」
ぼくは改めて絵を眺めた。さっきの客人が階段を降りようとしている。後姿だったが、やはり地味な恰好の老人である。階段を降りるのが大儀そうだ。老人はぼくのそばを離れ、友人を送り出しにいった。そちらのほうに会釈をし、再びぼくは絵に向かった。ほとんどが人物の大作だったが、ひとつだけ本ほどの大きさで激しい黄色を使った顔の絵があった。
老人がもどってきた。単に情熱的な色使いだからという理由だけで、ぼくはその小品を選んで指さした。
「……これが、そうだと思います」
「ほう、当たりましたね。そう、たしかにこれは若いころ、あなたくらいの歳にかいたものですよ」
「ぼくぐらいに？」
「ええ、はたちぐらいのものです」
「はたち？　ぼく十六ですよ」
老人がそれまでになく表情を変えた。
「十六？　あなたが？」
ぼくは、もともと二、三歳年上に見られることが多かったが、これほど意外そうな顔をされるのも珍しかった。
「十六？」
もういちど自分に言い聞かせるように彼はつぶやいた。

〈以下次号〉